

1.計画名称

縄文の里史跡整備・活用基本計画

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	(R4・総合評価共通)尖石遺跡第2期整備、永明中学校校庭遺跡発掘調査、市指定文化財パトロール、博物館「市民研究員」や考古館「ちの縄文遺産市民ガイド」の育成事業の実施に伴い、文化財の保存と活用の意識が高揚している。また、新型コロナウイルス感染症に対する規制の緩和により、各施設とも、それぞれの特徴を活かした企画展や各種イベントが再開され、本来の姿に戻りつつある。
今後の重点化施策番号	1	説明	特別史跡の指定を受けた尖石遺跡と史跡の上之段遺跡と駒形遺跡は、縄文文化を大切に思う先人達から受け継いだ当市の財産で、縄文文化をいかした個性あるまちづくり、人づくりを進めるための拠り所となる。これらの縄文史跡を適切に保存し次代に継承すると共に、多様な市民生活に活用するために整備を図る必要がある。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実(1)	おおむね順調	(R4・総合評価共通)尖石遺跡では、令和4年度まで史跡西側民有地の確認調査を行い、縄文集落の広がりを概ね明らかにできた。また、令和2年度策定の第2期整備基本計画に従い、翌年度から再整備に取り組み、史跡公園の環境が整いつつある。新型コロナの影響により、上之段遺跡での児童生徒との詳細分布調査が中断となったが、令和4年度に再開した。縄文史跡をいかしたまちづくり、人づくりが確実に進んでいる。	(R4・総合評価共通)上之段遺跡と駒形遺跡は、尖石遺跡と共に縄文を意識したまちづくり、人づくりの核となる重要な遺跡(史跡)である。上之段遺跡では整備の根拠となる確認調査に向けた、基礎調査(詳細分布調査)を児童生徒と共に進めているが、駒形遺跡では草刈管理に留まっており、史跡の整備活用状況が大きく異なっている。	尖石遺跡の再整備と上之段遺跡の詳細分布調査、駒形遺跡の確認調査が並行して進められるよう、史跡整備係を新設するなど抜本的な体制の見直しを行う。体制の見直しと共に、詳細分布調査や確認調査に地域住民に参加していただくなど、地域と一体となって当計画を進めていく。
2	埋蔵文化財保護の充実(3)	順調	(R4・総合評価共通)各種開発事業に伴う試掘調査、個人住宅等関連発掘調査、市及び民間の受託調査等を行ない、遺跡を適正に保護した。また、令和3年度に実施した市内遺跡発掘調査の結果を報告書にまとめ、ホームページ上で公開した。	(R4・総合評価共通)文化財保護法に規定された遺跡内の発掘(=土木工事)に伴う届出書及び通知書の受理件数、また、遺跡に該当するかの照会件数が増加している。遺跡を適正に保護するために、現地踏査や確認調査を行い、遺跡範囲の的確な把握に努め、早急に遺跡分図等を再整備する必要がある。	現地踏査と確認調査を併用し、遺跡範囲の精度を高めると共に、事業者との事前協議に力を注ぎ、遺跡の保護に万全を期す。ホームページ上での発掘調査報告書の公開に加え、発掘調査現場の公開(現地説明会)を積極的にを行い、市民の遺跡に対する保護意識をさらに高めていく。
3	文化財保護の充実(4)	おおむね順調	(R4・総合評価共通)文化財審議委員会を年2回開催し、委員と市指定文化財パトロールを実施した。指定文化財の日常的な保護・保全活動に要する経費等の一部を関係団体に交付した。	(R4・総合評価共通)自然環境や社会情勢の変化により、文化財を取り巻く環境が悪化しており、様々な課題を抱えている。特に維持管理のための財源確保や少子高齢化による次世代への継承が課題である。	文化財所有者に保護意識を高めてもらうため、保護啓発チラシの配布を継続する。また、市と文化財審議委員で行っている文化財パトロールに所有者等の立ち合いを求め、保護意識のさらなる高揚に努める。
4	文化財を学び、知る場の整備と充実(2)	おおむね順長	(R4・総合評価共通)尖石縄文考古館・ハケ岳総合博物館・神長官守矢史料館3館それぞれ、企画展やイベントを開催し、収蔵資料を公開し、展示についての調査を行った。また、令和4年度から3館周遊券を作成し、3館で協力して来館者の融通をはかっている。	(R4・総合評価共通)地域の貴重な資料等の保存と活用を図るため、公共施設再編計画を注視しつつ、必要な改修を計画的に実施すると共に、保存と活用を担う職員と市民研究員等の充実が課題である。施設の連携が十分でないため、当地域の多様な自然と重層性のある歴史を体系的に発信することができていない。	都市計画課と連携を図り、不具合の早期発見に努め、計画的に改修を行うことで施設の長寿命化を図る。市民研究員とちの縄文遺産市民ガイドのさらなるスキルアップを図るため、発表や案内の機会を増やしていく。他館へ学芸員を派遣する、3館を周遊するイベントを開催するなどして、当地域の自然と歴史を体系的に発信する。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	<small>縄文プロジェクト実行委員会 縄文をやる会</small>	・上之段遺跡と駒形遺跡の史跡整備は今後どのように進めていくのか。このままでは地元との関わりがなくなっていく、忘れ去られてしまうのではないかと。	・現状ではマンパワーが不足しており、上之段遺跡と駒形遺跡の整備まで行えない状況である。組織の見直しを行い、対応していきたい。
開催回数	1		
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			